

(実践報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	在宅において胃瘻交換を安全に行うための取り組み～合併症ゼロを目指して～
演者名	岡田 豊、山科明彦、池田義博、井戸茂樹、中村幸伸
所属	つばさクリニック

【はじめに】胃瘻交換は常に瘻孔損傷など合併症を起こすリスクがある。当院は在宅でより安全に胃瘻交換を行うため内視鏡ガイド下胃瘻交換法を考案し、本学会にて報告してきた。今回胃瘻交換時の合併症ゼロを目標とした当院の取り組みについてまとめたので報告する。

【クリニックの紹介】当院は訪問診療に特化したクリニックとして岡山県倉敷市に開業し、現在常勤医師 6 名、非常勤医師 5 名の体制で、約 400 名の在宅患者に対して訪問診療を行っている。

【胃瘻交換方法】現在、在宅にて胃瘻交換を担当している患者は 45 名で、うちバンパー型は半年、バルーン型は 4～6 週毎に交換を行っている。交換後にカテーテルが胃内へ留置しているか確認のため、胃瘻用内視鏡（PENTAX 製：FR7-RBS および RBS2）を使用。バルーン型の交換には平成 24 年 5 月より新たに考案した内視鏡ガイド下カテーテル交換法を用いてより安全性を高めている。バンパー型にはガイドワイヤー法にて交換を行っている。

【医師への教育】当院の医師は様々な専門分野から集まっている事情から、胃瘻交換経験者は少ない。そのため胃瘻交換の経験がない医師には、①胃瘻交換手技をスライドや動画を用いて説明②指導医師とともに在宅での胃瘻交換を実践③手技が安定したところで一人立ち⑤交換時にトラブル（挿入困難、出血）が発生した場合や、交換したものの胃内への留置が確認できない場合はすぐに指導医に連絡する、といった体制をとっている。また胃瘻に関する定期的な勉強会を行い、困難例など情報を共有している。

【結果】開業以来現時点まで、在宅で 500 件以上の胃瘻交換を行ってきたが、入院が必要となる合併症は 1 例も発生していない。また事故抜去症例に関しても内視鏡ガイド下交換法を導入してからは全例再留置に成功している。

【まとめ】誰でも安全に実践することができる胃瘻交換方法を確立し、今後とも「合併症ゼロ」を目指して取り組んでいきたい。